

モダンファイナンスへの 変革

BlackLine導入による決算自動化支援

EY Japan



Building a better
working world

デジタル化があらゆる業界に革新を迫っています。資本市場の利害関係者は企業に将来のビジョンを示すこと、経営戦略に基づきそれを迅速に実行することを求めています。正確な財務報告はもちろん、戦略の適時見直しと行動が期待されています。

高まる要求に応えるには、経理財務部門の変革が必要です。大手グローバル企業の取組みは先行しています。革新的なデジタル技術を活用し、リアルタイムの財務情報を取り込み、より正確な経営分析を進めています。競争優位を保つため、環境変化に機敏に対応できる体制を構築しようとしているのです。

経営環境は絶えず**変化**しています。
正しい経営判断には、**リアルタイムの
正確な財務情報**が必要です。

EYは15年以上にわたるBlackLineとのアライアンスを通して、企業のモダンファイナンスへの変革を支援しています。クラウドベースのソリューションを導入することで、決算プロセスの自動化、財務機能の高度化、コスト削減及びリスク管理の強化を狙います。EYは企業固有の戦略を理解し、会計監査、税務や規制対応などの実務を踏まえ、最適なBlackLineモジュールの導入と運用を可能とします。

EYの豊富な知見と経験が、経理財務のパラダイムシフトを確実にサポートします。

MODERN

モダンファイナンス
とは...

経理財務部門による経営に対する価値提供を

最大化 すること

従来の経理財務部門は会計規則に準拠し、必要な処理を正確に記帳することを求められていました。

モダンファイナンスの世界では経理財務部門の役割が変わり、企業グループ全体の戦略・意思決定に重要な役割を担うこととなります。

経理機能の
高度化



期末に集中して行う処理を日常レベルに反映します。経理財務の責任者がリアルタイムの情報に基づく財務分析を行うことで、企業の戦略・意思決定に大きな役割を果たすようになります。

効率化と
コスト削減



増加し続ける取引データ突合やチェックを自動化することで、単純なマニュアル作業を削減し、人材配置の最適化を図ることができます。

リスク管理
の強化



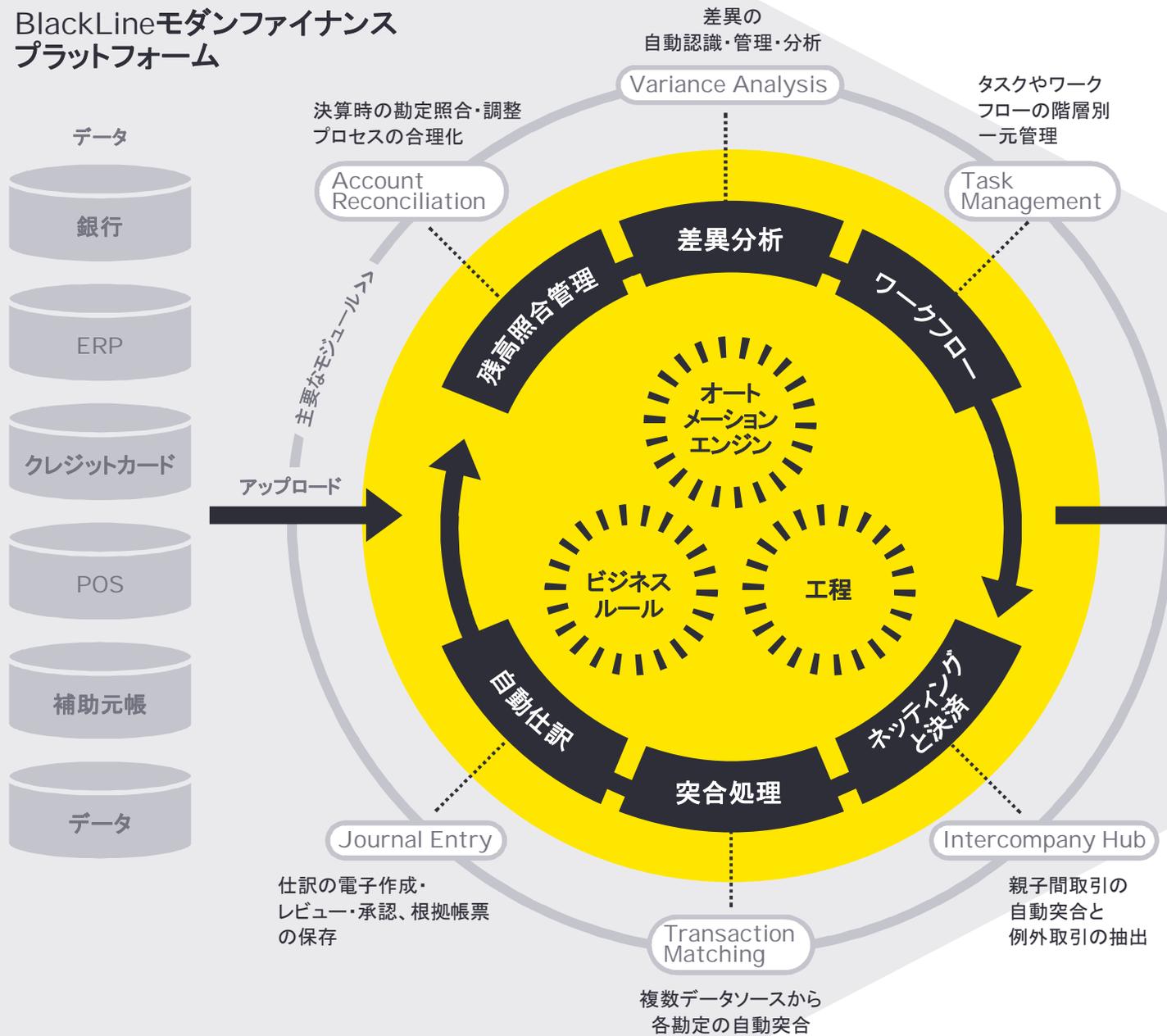
グローバルでデータを集約し、異常な傾向を自動的に抽出することで財務報告の虚偽記載が発生するリスクを軽減します。データの一元管理は見える化を実現し、透明性を高めます。

What is
BlackLine?

高度な財務コントロールと自動化ソフトウェア分野のリーダーで、決算プロセス全体を支援する一体型クラウドプラットフォームを提供する唯一のプロバイダー。世界で2,800社以上の経理財務部門が一体型のBlackLineプラットフォームを活用して、決算、照合管理、仕訳入力管理、会社間取引管理、内部統制などの必須のプロセスを遂行。本社はロサンゼルス。2018年日本法人を設立。

適切なコントロールと自動化により コンティニュアスアカウンティングを 実現します

BlackLineモダンファイナンス プラットフォーム



導入効果

- 実態に即した正確な財務分析
- 機動的な戦略と意思決定
- 投資判断や資本政策への反映

リアルタイムの経営状況の把握

リアルタイム 決算手続と分析

監査に対応した承認履歴

差異分析

PL分析

KPI

MD&Aの開示

会社間決済

レポート

CONTINUOUS ACCOUNTING

月末(期末)・月初(期初)に偏りがちな月次(年次)処理を日常業務に組み入れ、事業の最新動向を反映した財務情報の提供を可能にします。日々変化するリアルタイムの情報に基づく迅速な決定を支援します。

- ・ 財務報告の信頼性の向上
- ・ 担当者の負担軽減
- ・ 人材育成と業務高度化

決算業務負担の平準化

- ・ 職務分掌の強化
- ・ グループ決算のタスク管理
- ・ 国内・海外子会社のリスク管理・連携

グループガバナンスの強化

ACT FAST

THINK BIG

EYによる

BlackLine導入支援サービス

PHASE 1

基本アプローチと
主な支援範囲

現状分析

財務報告の「As-is」を分析し、
導入・運用において
解決すべき課題を可視化する

- ・ 財務報告プロセスレビュー、データ/システム構成レビュー及び文書化
- ・ ギャップ分析
- ・ スコープ定義

導入によるベネフィット

BlackLineの顧客調査や外部のITリサーチ機関などの調査では、導入企業に定量的な恩恵があることを示しています。

仕訳の自動化

≥ 70%

BlackLine

導入規模

海外グローバル大手企業を中心に
世界各地で活用されています。
(2019年8月現在)

利用地域

150
か国以上

企業数

2,800
社以上

ユーザー数

22.2
万人以上

EYは会計専門家としての視点からBlackLineの価値を高めます。
企業固有の戦略に寄り添い、各国の規制やリスクを想定した上で、
最も効果的なBlackLineモジュールの導入と運用の具体的な提案を行います。

PHASE 3

PHASE 2

デザイン + 設定

将来形の設計

財務報告の「To-be」定義を支援し、 導入計画を策定する

- 取引サイクルの「To-be」を定義
- プロセスの削減、簡素化、標準化及び自動化の範囲の決定
- 導入ロードマップの最適化
- 各ステークホルダーの視点を反映

会計・監査上のリスクを勘案した 要件定義・運用体制を提案し、 適切な関連文書を作成する

- 要件定義
- 人材、プロセス及びテクノロジーを統合したオペレーティングモデルのデザイン
- 会計方針及び職務分掌規程の作成・アップデート

EYの豊富な知見と経験が経理財務の パラダイムシフトを確実にサポートします

マニュアル作業の削減

20~70%

アカウントの自動承認

24~86%

決算期間の短縮

2~7^{*}日

マニュアル認証の削減

54%

マニュアルチェックリストの削減

66%

* 出典: Article 'eBay Wins Bid for Improved Financial Close' published in 2014 issue of insider PROFILES

EYについて

EYは、アシュアランス、税務、トランザクションおよびアドバイザリーなどの分野における世界的なリーダーです。私たちの深い洞察と高品質なサービスは、世界中の資本市場や経済活動に信頼をもたらします。私たちはさまざまなステークホルダーの期待に応えるチームを率いるリーダーを生み出していきます。そうすることで、構成員、クライアント、そして地域社会のために、より良い社会の構築に貢献します。

EYとは、アーンスト・アンド・ヤング・グローバル・リミテッドのグローバルネットワークであり、単体、もしくは複数のメンバーファームを指し、各メンバーファームは法的に独立した組織です。アーンスト・アンド・ヤング・グローバル・リミテッドは、英国の保証有限責任会社であり、顧客サービスは提供していません。EYによる個人情報の取得・利用の方法や、データ保護に関する法令により個人情報の主体が有する権利については、ey.com/privacyをご確認ください。EYについて詳しくは、ey.comをご覧ください。

EY新日本有限責任監査法人について

EY新日本有限責任監査法人は、EYの日本におけるメンバーファームであり、監査および保証業務を中心に、アドバイザリーサービスなどを提供しています。詳しくは、www.shinnihon.or.jp をご覧ください。

© 2019 Ernst & Young ShinNihon LLC.
All Rights Reserved.

ED None

本書は一般的な参考情報の提供のみを目的に作成されており、会計、税務およびその他の専門的なアドバイスをを行うものではありません。EY新日本有限責任監査法人および他のEYメンバーファームは、皆様が本書を利用したことにより被ったいかなる損害についても、一切の責任を負いません。具体的なアドバイスが必要な場合は、個別に専門家にご相談ください。

本書についてのお問い合わせ

EY新日本有限責任監査法人
財務会計アドバイザリーサービス(FAAS)事業部
FAAS_net@jp.ey.com